

## 平成 27 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：平成 27 年 5 月 29 日（金）13：30～15：30

場所：久慈グランドホテル ロイヤルホール室

### 1.開会

### 2.あいさつ

#### 【高橋局長】

県北広域振興局局長の高橋と申します。皆様方にはお忙しい中、県北広域振興圏地域運営委員会議にご出席頂きまして、誠に有難うございます。また、日頃、私どもの県政の推進にあたりましてご協力ご指導頂きまして、重ねて厚く御礼申し上げます。昨年度の最初に会議で申し上げました、復興の関係になりますが、昨年度から三年間の本格復興期間ステージに移行しておりまして、本年度はその中間年となります。県では復興に邁進する年、復興邁進年と位置付け、さまざま推進して行こうということになっております。私ども県北広域振興局と致しましても、防潮堤の整備等を始め、施策、事業をしっかりと進めて行きたいと思っております。また、県の長期計画がありますが、昨年度までがアクションプランの一つの期間となっております。長期ビジョンというのがあります。今後、引き続きそれに基づいて施策を進めて行く訳でございますが、昨年度終了になりましたアクションプラン、これの成果についても検証した上で、色々な点を次の施策に生かしていこうと思っております。今年の四月からご存知のように NHK の BS で「あまちゃん」が再放送されたということ、それから四月末頃に小袖の海女センターが再建されたということもありまして、ゴールデンウィーク中心に引き続き、当地域に大勢の観光客に来て頂き盛り上がりしております。同じように二戸の方では、歴史ということで「九戸政実」を素材にして、地域での盛り上がりを見せております。それから先日、一般社団法人化ということで組織が立ち上がりましたが、北いわてが地域アパレル産業、縫製業の集積地でもあるということで、いろんな形でご支援をしていきたいと考えております。それから県北地域の地域産業の中心となる食産業、こちらも引き続き進めて行きたいと思っております。後ほど県としての施策をご説明申し上げますが、地方創生として人口減少対策、昨年 of 二回目の会議で色々ご意見を頂きましたが、人口減少対策もしっかりと進めていかなければならないと思っております。振興局の基本方針三点目と致しましては、人口減少対策についても進めて行きたい、特に若い方々の地元での就職、あるいは就職した後の定着の支援、女性に魅力ある地域づくり、特にこういったことを意識して進めて行きたいと考えております。本日は県北地域の復興・振興に向けまして、委員の皆様から忌憚りの無いご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

### 3.意見交換

事務局から次の資料により説明

- ・ 1 平成 27 年度県北広域振興局業務方針
- ・ 2-1 平成 27 年度県北広域振興局振興施策の概要
- ・ 2-2 平成 27 年度県北広域振興局振興施策実施計画（年間）

**【高橋局長】**

それでは、只今説明致しました内容につきまして、その他でも結構ですので、振興局の進める施策に関しましてご質問を含めご意見等ありましたら出して頂ければと思います。名簿順に安藤委員様からお願い出来ればと思います。

**【安藤ノリ子委員】**

私たち浜の方もおかげ様で 9 割程度まで復旧・復興致しました。産業が順調に進んでおります、ありがとうございます。一月に料理コンテスト岩手県大会がありまして、久慈地区代表で行って来ました。ちょっと残念な結果でした。恒例ですけども、5 月の直売会、ウニの森づくり、植樹祭などを毎年行っておりますけども、皆さんに協力して頂いて頑張っております。また、明後日 31 日には朝市直売会を開催致しますので、ウニ、アワビ、ホヤの直売をします。6 月の中ごろになるとウニの口開けが始まりますが、今年はウニの身入りもいい、海藻も豊富で頑張りたいと思っています。

**【高橋局長】**

有難うございます、浜料理のコンテスト出場有難うございました。沿岸部の各地域から出たと思いますが、感想はいかがですか？

**【安藤ノリ子委員】**

ワカメを使うメニューでしたので、うちの方はワカメと言っても養殖じゃなく、全部天然物です。ワカメも県南の方とは味も全然違うみたいですし、その時期が県南の方では、丁度早取りワカメの時期でそれが受けたみたいでした。

**【高橋局長】**

今年もやるんですね？水産部長さん

**【高橋水産部長】**

浜料理選手権、昨年実施して結構好評を頂き、その波及効果もあるということで、今年度もまた実施させて頂く事にしております。時期的なものとかですね、素材がある地域と無い地域があります。そのあたりルールの見直し、また来年度国体もありますので、それに出せるものを目指し、いま出展の基準や見直しなどを行っている最中ですので、またご相談出来ればと思います。

**【高橋局長】**

5 月の直売会、こちらの方はいかがでしたでしょうか？

**【安藤ノリ子委員】**

今回で 11 年目になるんですけども、いままでにない位お客様に沢山いらして頂きました。あまちゃん効果もあるみたいですね。中学生や高校生がボランティアで来てくれるんですよ、販売などをしてくれて子供達にも、あまちゃん衣装を着せたのもウケけたみたいでした。

【高橋局長】

直売会についてこうした方がいい等ありますか？

【安藤ノリ子委員】

リピーターの方で、県内以外にも関東の方からも来て頂いています。東北エモーションでレストラン列車に乗ってきた方々を、私たちはウニ、ホヤ、アワビと書いたのぼりを振って歓迎しているんですよ。それを見て来てくれる人達もいるみたいですが、ちょっと会場が狭いようです。そこら辺も考えていかなきゃいけないし、駐車場が狭くて国道にズラッと並んで、交通に支障をきたしている様で、そこら辺が改善していかなければならない点です。

【高橋局長】

なるほど。盛況になってくるほど、別の課題も出てくると言う訳ですね。我々も一緒になって、考えていければと思います。ありがとうございます。次に生田委員さんお願いします。

【生田弘子委員】

私の方からは、2・3点お伺いしたいです。第1点は防災対策の推進についてですが、こちら三陸と内陸では随分温度差があると思います。防災対策の強化は、本当にとっても大事な事で、3.11 東日本大震災津波の時の「てんでんこ」の大切さは、全世界に発信されたところでもあります。たとえば内陸の皆さんにも、普段の防災対策の必要性を認識してもらおう機会が欲しいものだといつも思っております。それで先程、出前講座を年6回計画されるという事なんです、その辺の意識改革をするには、小学生、中学生、高校生どこに対しての年六回なんですか？また、これを実施するにあたっては、学校との連絡が非常に大事になってくると思いますが、そのあたりはどうなっているんでしょうか、教えて頂きたいです。

それから資料の3の3で農林水産業の所ですが、県北地域の内水面漁業の振興というのが掲げてありますけれども、これはどの様な感じなのでしょう？お伺いしたいです。

それから観光についてですが、私たちが例えば京都・奈良などに行くと、タクシー運転手さん、あるいは町の方々が、受け入れ態勢がすごくて、皆さんがガイドとなっているようなんですね。それが観光に行った者からすると、すごく助かるんです。それを自分達の街に置き換えて見ますと、いらして頂いても、全員がシドロモドロでなんとなくあやふやな説明だったりしますので、この中にタクシーの運転手さんや、町の方々の教育だったり、町全体がガイドとなって、皆さんをお迎えするという対応が必要なんじゃないかなと思いますので、その辺をどのように考えているかお聞かせ頂きたいです。

次にブロイラーに関してですが、地域資源を生かした食産業の振興というのがあります。その中の北いわて食材の認知度の向上にブロイラーがあるんですが、ご存知のとおり二戸地区はブロイラー産業が盛んで、鶏肉の消費拡大は元より、今は鶏の糞からエネルギーを作るということで、バイオマス発電所が出来る予定になっております。ですので一企業の取り組みではありますが、特徴をもったエネルギー発信の地ですので、その辺りもなにかの折に、町を上げて宣伝して頂ければいいのかなと思います。

#### 【高橋局長】

では、防災対策からお願いします。

#### 【横山土木部長】

ここに記載されております防災対策の強化につきましてですが、津波に対する防災出前講座について取り組んでおります。これまでの経過ですと、平成15年にモデル的に第1回講座を開きまして、平成19年から年に一回ずつ、1地区を対象に取り組みまして、その後、平成21年からは毎年連続して講座を開催しております。どのようにして対象相手を選ぶかについてですが、基本的には、小学校、中学校、高校の学生を対象にしております。今年で言えば昨年度末に管内の学校に御案内申し上げて、講座の内容を紹介したうえで、講座開催を希望する学校からの御依頼に応じて、講座を開催する流れになっております。

今年につきましては、現時点で15の学校から御依頼頂いており、6月上旬から順次開催する事となっております。講座には2種類ありまして、小学生に対しては、防潮堤等の津波防災施設を見学してもらいながら、当部職員がその仕組みや効果等を説明しています。また、中学生、高校生に対しては、現地見学というよりは、当部職員が学校に赴いて、座学により津波防災施設の仕組みや効果等を説明しております。

この取組は、県内における沿岸管内の公所において、実は当管内のみが実施しており、県庁所管課でも、この取組を津波防災の視点から、沿岸全域に拡大を図ることについて検討していると伺っております。

#### 【高橋水産部長】

それでは内水面についてですが、カワウ被害防止対策でございます。カワウが鮎を食べる被害が深刻になっております。残念ながら県北地区でも飛来数が増えてきております。各川の組合さんの方に委託して、花火を打ってもらうとか、カカシを置くと言った取組をして頂いております。組合同士で情報交換して、どこに行ったとか連携して、効率的に鮎の食害を食い止める取組を進めてきております。もう一つはワカサギの人气が高まっており、それをいかに観光資源化出来るかどうか、ワカサギの資源の状況を把握しながら組合さんと取り組んでいるところです。

#### 【内宮経営企画部長】

観光関係でございますが、観光の受け入れ態勢につきましては、あまちゃん放映以降この地域にも、多くの方が訪れています。振興局と致しましては、まず、受け入れるこちら側の方が地域をよく知る必要があると、お国自慢手帳なるものを作りまして、それを各関係機関に配布した所でございます。タクシーの運転手さん含めた研修といった事では、観光協会ですとか久慈の商工会議所等々と連携し、恐らくタクシーの運転手さんを対象とした形で進めていると思っております。振興局としても、フォローしていきたいと思っております。それからブローラー関係の再生可能エネルギーでの視点でのPRですが、振興局におきましては再生可能エネルギーを進めると言うことで、各関係部からチーム員を出して頂いて、連携チームといった形で様々な事業を進めるにあたって、許認可ですとか、そういった部分の所の技術的な助言させて頂いてるんですけど、今まではどちらかと言うと、太陽光が中心となっていたんですけど、今後は風力ですとか、委員さんか

らご指摘のあったバイオマスと言った所も含めて、可能な取組をしていきたいと思っております。

【高橋局長】

よろしいでしょうか？続いて五日市委員さんお願いします。

【五日市亮一委員】

農林水産業に関してなんですが、自分達の所では営農組合を法人化して、十年目になるんですが、農家の高齢化のなか、これまで集積等がなかなか進まなかった。本年、中間管理事業を活用し金田一地域で農地集積を実施、高齢化しているなか事業による集積が一気に進んだ。

一気に進むのは兼業化の地域なのでその通りですが、組織化や法人化がこの米余りの対策、減反政策が無くなる方向にあるが、大きな組織を作れば作るほど、今後どういう作付（何を作付？）をしたら良いのか、コストをどう削減したらよいのか、もっと聞きたいと考えている地域のリーダーや組合長さんたちが非常に多く、この方々と情報交換した際に良く聞かれる。

例えば、一戸町の基盤整備地区の方や、久慈市の法人の組合長さんからも呼ばれ話をしてくれといわれている。今後、飼料米が良いのか地域の特徴ある米があるのか？県北沿岸の米はこれからも売れるのか、これからに向けて不安を感じている。県北農業研究センターがあるので、自分たちでも色々指導を受けている。コスト低減のための乾田直播や湛水直播、大豆の機械化栽培体系等の指導を受けている。この情報を法人化している組織や地域のリーダーやこれからのリーダー達などと、県の持っている技術について情報交換をこれまで以上に行っていく必要がある。米の政策は不透明であるが、県南のあきたこまち・ひとめぼれに代わる品種として、今後2-3年大々的に進めることとして、生産者の期待はかなり大きいものと聞いている。県北地域では“きらほ”が県の登録品種となり、作付を進めているが種子が不足している。この品種は暖かいところで作ると品質が低下することから、県北・沿岸の寒暖差の大きいところで作ると低アミロースの特徴が良く現れる。

県北地域はどうしても“鉛色”の暗いイメージがあるが、ひらがな“きらほ”としたのは県北に適した品種として“暖かさ”を表現したもの。この機会に生産を増やして、この地域でも美味しい米が出来るという自信を持たせるようにしてもらいたい。発酵鶏糞で米を作りその米で酒を造るという、地域循環型農業に取り組んできた。

十文字ブロイラーに鶏糞すべてをバイオマス発電の燃料として焼却しないで少し残してくださいとお願いしている。

せっかく地域循環型農業を営んできたが、十文字ブロイラー側では燃料使用にはまだ不足しているとの話。

酒米やいわてっことは地域の資源で進めてきた特徴ある米作りなので、その取組を伸ばしてほしいと会社のほうにもお願いしていますし、部会を通じJA/全農にもお願いしている。

【高橋農政部長】

集落営農組織、担い手として地域を守る取組を行っていただいている。

米価下落は、組織・個人含め非常に大きな影響があったと認識しております。規模拡大すればコストが下がり収益性が上がるというのは論理上その通りですが、単純に面積を拡大しただけでは課題が多く、金田一営農組合でも、“きらほ”などの品種の組み合わせや大豆転作等を取り入れるなど、年間を通じた営農活動体制が必要と考えています。また、その対応は組織ごとに相談しながら行う必要があると考えています。

また、国では農村地域の所得倍増政策が打ち出されていますが、これは単に食材・原料を作る一次生産だけではなく、6次産業化等経営の多角化を含めながら考えていく必要があります。

技術に関わる情報の共有については、県北農研や普及室と連携を密にししながら、主業型農家との情報のやり取りや研究開発・技術にかかる要望についての情報をつかんで行きたいと考えていますし、私達のほうからも積極的に出向きたいと考えております。

“きらほ”については、種子供給する機関と相談させていただきたい。種子生産については、原種の生産からの体制がありますので、状況を確認させていただきます。発酵鶏糞については、畜産業者側での効率的な処理方法として行われていると思いますが、地域循環での農業に取り組んでいる実態もありますので、畜産サイドへの堆肥等の需要の情報を提供するとともに、有用有機物の利用について橋渡しできればと思います。

#### 【三田農業改良普及室長】

農業技術は日進月歩で進んでいる。常日頃部会等の総会で“現状維持は後退の始まり。見直しできることは見直しし、新しい技術を（経営体の発展段階に応じて）どんどん取り込んでいきたいと思います”とお話している。

普及センターでは個別に相談できる体制になっており、気軽に足を運び、営農組合や地域が抱えている現状を繋いでいただき、改善の方向等提案していただき、一緒になって改善の道筋を考えていきたい。

直播については、鉄コーティング技術が普及してきており、県北沿岸においても地域事情に応じながら進めていきたいと思っています。

#### 【大崎由美子委員】

私共は主に林業、木炭の生産を行っておりまして、現場から感じる事を申し上げたいと思います。昨年から木炭の注文が大変多くなりまして、生産が全く間に合っていないという状況になっており、恐らく使う方が増えているということではなく、生産者が減っているからと言う事だと思います。特に今年に入ってから、販売用の炭が欲しいと言う問い合わせが多く来ております。そういう問合せは以前にもあったのですが、先月ですと横浜の燃料屋さんが岩手に来て、レンタカーを借りて現地を回りながら聞き込みをして、炭を作っている所を探して歩いているんです。月々この位でどうですか？と生産者を直接回って話をつけていると。ということは、全国的にも炭が足りていないんだなと実感しております。今月に入ってから、静岡の燃料屋とか県外から岩手木炭と言うのは使い勝手が良いと、燃料として優れているとファンの方も多くいるんで、遠くの方も岩手木炭が欲しいというお声を頂いて、その木炭を使って工芸品とか、お土産とかインテリアを作っていたんですけども、炭が足りていないということで、燃料が優先で最近炭を使っていない工芸品を作っております。雫石にある「どんぐりころころ」と

いう木工品を扱うお店があるんですけれども、とうとう今年は一切出せませんとお断りをしたと言うことで、生産者をいかに増やすかというのが、一番問題なのかなと思っています。炭を作るには、果てしなく遠い事のように感じるかもしれませんが、窯を作ってしまうとマニュアルはある程度確立されているので、一度やっつてすぐには成功しないかもしれませんが、マニュアルに沿ってやれば、意外と職業として成り立つと思うので、窯作りを支援して頂ければ、作る方も増えるのではないかなと思います。炭と言うのは、使う方は何度も何度も使っていますが、使わない方は一生に一度も手にしたことが無いという方が多くいらっしゃいます。今は、アウトドア商品というのもとても充実していて、炭もあつという間に起こせる、優れた器具が世の中に売られていまして、何年も前に岩手県木炭協会と一緒に、代々木公園のアウトドアイベントに、アウトドア関連会社と一緒に、炭も併せて商品を PR するというので、その道具がそこまで必要ではないけど、火を起こしてみたくなるような機能美のあるもので、アウトドアをされる方は御覧になったことがあると思うんですが、すごく優秀なものがあるので、後の資料の方に炭の PR イベントが予定されているのかな？と受け取れる資料があったのですが、民間の企業とやるというのは、県の方では難しいのかもしれないんですけれども、アウトドアの商品と一緒に PR する場所があれば、炭を並べて実際使って実感して頂ければ、より PR になると思うのでそういう場所があったらいいな、とっております。

あまちゃんの再放送を見ておまして、改めて面白いなと思えました。九戸村が久慈に向かう途中にあるので、お客様がたくさん寄って頂いて、おこぼれを頂いている感じなのですが、いつもおこぼれだけではいけないなと思い、NHK で地域発ドラマと言うのに力をいれていますので、2 匹目のドジョウでは無いんですが、あまちゃんにつぐドラマを公募して、地域発ドラマでもう一度売り込みをして、あまちゃんを超えるドラマを作ろうと言う意気込みがあってもいいのかなと思っております。

#### 【木村林務部長】

貴重なご意見ありがとうございます。炭について若干価格も良くなって売れているという情報を得ております。聞くところによると中国の輸出が落ちて、それに伴い国産の需要が多くなっていると聞いています。横浜の燃料業者さんや静岡の業者さんが直接買い付けに来ているという事は正直始めて聞きました。そういう意味では非常に炭の意識が高くなっているのかなと思います。そういった背景の中には後継者の話もありましたが、実は私も去年、今年と何件か生産者の方を回って見たのですが、ご承知の通り木炭の価格は変動が大きいんです。そうしますとお父さん達（親父さん達）は、ある程度の価格が維持出来れば生業として十分やっつていけるので、価格の変動を抑えたいというのが第一なんです。やはりどうしても 6kg で 700 円～800 円になると、とてもじゃないが商売としてやれないので、後を継げと子供達には言えないんですが、1,200～1,300 円を維持出来れば、やっつていけると私は聞いています。そういった意味で去年から取り組んでいるのは、生産者の方々の地位の向上と申しますか、やはり一定の価格で出せるように、生産者側が少し強くなれるようなものを形成しなければいけないのではないかと申す事で、北いわて木炭産業振興協議会という組織なんですけど、そちらの組織強化を去年から取り組んでいます。一方、県の木炭協会の方も色々やっつているのですが、木炭協会その

ものが一般社団法人になった事で、それまで各地区にあった支部、例えば九戸支部や軽米支部そういったものが廃止されてしまいました。従来、木炭協会で行っていた部分が地方として頼るといいますか、パイプが細くなってしまったので、木炭協会の方にも従来に変わるものだけでも、何か地方を支える仕組みを作ってもらえないかと話をしていました。一方、北いわて木炭産業振興協議会の方で自立する様な取組をやっているところです。なので、私ども色々な意味で生産者が強くなるには、少し語弊があるかもしれませんが、その立ち位置を確保する、その様な取組をしっかりやって行きたいと思っています。それからイベントの話ですが、北いわて木炭産業振興協議会、大変有名なんですが、やはり大生産地の県北なので少しPRをしようじゃないかと。時々県南の陸前高田の辺りでも木炭まつりなんかをやっていますが、そちらに比べて生産量はこちらの方が多いため、本家本元が頑張らなければいけないという事で、今年秋に久々の試みですが、木炭まつりをやりたいと取り組んでいます。その中身についてはまだ詰めているところですので、大崎さんの提案がありましたアウトドアメーカーとタイアップして、出来れば良いと思っています。手っ取り早いところでは久慈市さんが去年の産業まつりでも、サンマを焼いて出したのですが、サンマは注目されるのですが、焼いている炭をさっぱり気付いてくれないので、今年は昇り旗でも立て岩手の木炭をPRしてやれば良いと思っています。

#### 【内宮経営企画部長】

テレビドラマで取り上げられるような取組という話がありましたが、これにつきましてはジャパンフィルムコミッションといった、そういったロケ地への調整する機関があるのですが、そこで全国ロケ地フェアというものがあり、それにも参加し情報収集する努力をしたいと思っていますし、やはりテレビで取り上げられる為には美しい風光明媚な景色や、歴史的遺産といったものも重要ですが、ストーリー性というか物語が無ければいけないといったところで、昨年度末に二戸地域の関係で「岩手のてっぺん不思議発見」といった冊子を作り、歴史的なものを含めた色々なものを紹介しています。こちらについては今年度も作成することとしています。

#### 【小笠原巨樹委員】

私も林業の関係からお話をさせて頂きたいと思います。農林水産業の経営体の育成と産地形成という事で、県北広域振興圏でバイオマス発電施設が一戸にも出て、野田にも出て非常に木材需要が高まっており、今年の12月から木材を使い始め4月から試験運転で野田では8月から稼働するという事で、大変な量の木材が必要となり林業事業者としては、この量を戸と二戸で供給するのは、実際難しいのではないかとこの声が出ているくらいです。自分は間伐施業をして、その委託費で会社を運営するという事をやっていますが、その他で自分の家は2,000ha以上の山林所有者でもあります。心配なのは大型の林業機械でどんどん山が伐採されて、森林環境的にどうなっていくんだろうと、近い山村は運送コストもかからないですし、そういった事で森林所有者をどのように守っていくかというところで、今後の環境が変わっていくと思います。自分の目指す林業というのは、小面積皆伐で更新費用を掛けない林業という事なのですが、今まで振興局さんの方で得た知識で植林したり、そういった知識もたくさんありますので、それ



も小面積で続けていった上で、果たして自分はどうやって森林を行使していこうかとなると、やはり長伐期を目指していくことになるので、そうすると今 60 年生位が一番年のとった木という事になります。その切った木というのが今、チップ材にしかならないですとか、バイオマス材で終わりだとか言うことになってしまいます。折角まっすぐの良い材を育てても、良いところを高く買って貰わないと全く手元に残らないので、結局雇用も自分で地元雇用もすることが出来ず、後の人口問題にも関わると思いますが、若者を受け入れることも出来なくなっていくので、林野庁ともそうですが、山林の評価システムを見直してもらい、今まで長いことそこで山を守っている訳ですから、そこに山林がある事への恩恵を環境林としてのものなのか、生産林としてのものなのかどちらを選ぶかは難しい問題ですが、そういった意味で評価システムを確立して頂き、尚かつ流通でいい場所は高く買ってもらう、その次は合板、その次はバイオマス、その次はどうなるかという様なシステムを作りたいと思います。自分がいま林業をやっているのですが、業として成り立ってないとずっと思っています。それは守られてない感じもしますし、システムチックになってない気もするので、補助金は大変ありがたく使わせて頂いていますが、自立して尚かつ振興局さんと上手く付き合っていく方法は無いかと考えて貰えないかと言うところはあります。循環型の資源再利用の貴重なエネルギーが木材でもあると思うので、そういう部分を突き詰めていきたいと思っているのでご協力お願いしたいと思っています。

あと、別の話になりますが、生活路として林道を回り通っているのですが、冬季の通行止めが 4 月 10 日までの通行止めで、地元の方で自分の山に行きたいのに、雪の解けている道を鍵を開けて通らなければならないという状況が続いています。鍵が解除になれば地元の人もどんどん通る道なので、大雪の可能性が 4 月 10 日までであるかもしれないですが、以前に比べ温かい時期が早まって来ているので、現状に即した通行止めのルールを作ってもらえれば大変ありがたいと思っています。

#### 【木村林務部長】

少し難しい話だと思いますが、バイオマス発電については一戸と野田村で今進んでいまして、両方合わせますと、年間の燃料としての木材の使用量は、20 万 m<sup>3</sup>位になるのではないかと推定しています。現実にその量を供給出来るかと考えますと、非常に難しいというのが私の率直な感想です。正直言って野田と一戸に両方出来るというのは、ちょっと過剰じゃないかなと思います。その他に花巻にも出来るとか色々ありますが、それは民間がやる事なので県の方で言うことは中々出来ません。本来の考え方では木質バイオマス発電というのは、未利用の山に放置されている木材等に価値をつけて使うものだという前提のもとに出て来て、今のフィットの制度（再生可能エネルギー電力固定価格買取制度）も未利用材を使ったら、一番高い電力 32 円で買えるんだとその様な制度です。実際山から切って本来製材や合板に使えるものを燃料にして燃やすと、その場合 20 円や 17 円になるという仕組みなので、制度設計が十分に進むと山に放置されているような木がお金になると、ですから従来ですと間伐として価値が無いものを 1 人 1 人の所有者さんが、担いで出して来てそれを集めて出せば、放置していたものにも価値が付くと言う話です。しかし、先程も言いましたが、使う量も膨大なので物は選んでいられないと、

どんどん使うような危険性は十分あると思います。となると、本来は1本の木を倒していわゆるマグロのトロの部分は製材品として、赤身は合板とか、そういった形で無駄なく使える仕組みだったのですが、どうもその辺が現実には動いているかどうか不安なところでは。我々もその辺は注視しているのですが、ただ間違っても見えている木が全て無くなるような事は無いと思うんです。そんなに高く電気を売ることが出ませんので、結局燃やして売ってペイしないと出来ません。ですから、過剰な電力会社が潰れるか又は他の燃料、例えば海外からヤシ殻を輸入して燃やすとか、安いチップを持って来て燃やすとかいう可能性はありますが、山がすっかり裸になるという事は考えていません。どうなるか分からない部分ではありますが、長伐期の話もありましたが、我々の考え方としては資源を絶やさず、しかし、従来植えて来たものはどんどん、例えば成長量に見合う量を使っていれば山は問題ないと、1,000万haで1億m<sup>3</sup>育っているのに、800万m<sup>3</sup>とか600万m<sup>3</sup>とかもっと少ないですが、もっと使いますというのが国の方針です。いわゆる適切な使い方をすれば、それ程心配はないかと思います。ただ、一部に道路のあるところだけ過剰に切られるとか、そのような事が無いようにしっかり見て行きたいと思いますが、これから大事なことは切ったら植えていく、そうしないと再資源、循環型資源として成り立たないので、そこはしっかり見ていきたいと思っています。道路に関しては林道ですか。

**【小笠原巨樹委員】**

林道に向かう戸田荷軽部線の道路で、私はその様な思いをしたので言いました。

**【横山土木部長】**

二戸管内の道路事情は詳しくないのですが、今のお話について、二戸土木センターに申し伝えるということで処理させていただきたいと思います。

**【高橋局長】**

ちょっと想定より時間が押していますので、方針を変えまして、ご意見を伺っている途中ですが、もうひとつ説明して頂く部分もありますので、そちらの説明をして頂いて、これらを含めて委員の皆さんにご意見を頂きますし、先に御意見をいただいた委員さんから人口問題についてご意見がありましたら、頂くという形にさせていただきますでしょうか？

**【政策地域部政策推進室 熊谷主査から次の資料により説明】**

- ・ 3 岩手県ふるさと振興有識者会議の全体スケジュール
- ・ 4-1 人口問題に関する報告（概要版）
- ・ 4-2 人口問題に関する報告（本文）
- ・ 5 本県の人口の現状と将来推計について
- ・ 6 まち・ひと・しごと創生法の概要

**【高橋局長】**

人口問題を含めてご意見を頂きたいと思います。恐縮ですが、個別のコメントは出来かねると思いますので、ご了承頂ければと思います。

### 【奥寺文夫委員】

空き家対策の関係上、法律が施行されるというお話がありますが、最近若い家庭を持っている方々と話す機会がありました。アパートではなく地域に住みたい、子供が2人いるとアパートだと大変なので、古くていいから庭のある家は売ってないかという話でした。一昨年、近くでその様な機会があり、古い家が売りに出たら若い方々3、4世帯来ていて、その家は建てて40年程経っているのですが、途中で改修したのか情報収集をしていました。知っている限りの事をお知らせしましたが、3世帯の方が是非欲しいと言われたようですが、最終的には小久慈の方が地域に近いという事で購入したようです。若いご夫婦の思いとしては、こんなに空き家があるのにどうして売りに出ないのか、そのような事を久慈市ではやっていないのか、という話を聞きました。持ち主の方の事情も色々あるようで、難しい問題だと思いました。

### 【高橋局長】

こちらに住みたいと思う方と空き家の活用との問題は色々大変だと思いますが、重要だと思います。先程の人口問題の報告にも「移住・交流体験の推進」の中で、空き家等を活用した短期滞在住宅の整備そういったものを視野に入れているということです。ただ、家の持ち主の方の事情もあると思いますので、そちらの課題も含めて対応していくことになると思います。

### 【小野寺ちとせ委員】

私は保育所の理事をしております。現在、野田村の役所で子供が定員オーバーだと言われるようです。保育所は若いお母さん達が、仕事の出来る体制が整っていますので、保育士が見つかった事により、乳幼児も結構入っておりとても良い事だと思っています。お年寄りのケアは以前の方があった様に思うのですが、最近は若いお母さん達の支援ということに、目を向けて頂いたのが良かったのかと思います。人口が減っている部分はあるのですが、野田村では1人のお母さんに対して子供の数が、この2~3年増えていきますので、とても喜ばしいことだと思います。広報等でも3人以上は表彰したり、野田村の地域のを差上げるとか、産んだお母さんにするとちょっとの事でも嬉しいと思いますし、産む力になると私は感じています。

あと、引きこもりの方がいるので、その方々のケアというのは村でもやっていると思いますが、どうにか引き出してあげたいですし、私の担当地区にも若い方のでいるので、その為にはやはり仕事が身近にあれば、特に何か資格が無くてもできる仕事が身近にあればいいと感じています。地域にある企業にも、その様な方々を引き出して欲しいと思っています。

あと、私の耳に入ってきた話で、被災した親を助けたいと戻って来た長男の方が、バイオマスの仕事がしたかったようですが、資格が無いからダメだと言われた様で、仕事が見つからないようですので、何かの機会に情報が流れれば良いと思いました。

### 【高橋局長】

ありがとうございました。将来的に人口を増やすためにも現在地域にいる方、一人一人大事にしていくというのが重要だと思います。

#### 【小谷地 勝委員】

人口が減っているという事を考えると、やはり担い手問題だと思います。野田村においては酷いもので、漁業では私の下が3~4人しかいない状況です。言いづらいですが、結婚していない者は2~3人います。私の子供もそうですが、働く場所がある、ないではなく他の問題ではないのかなと思います。今、大学生の子供が2人いますが、戻って来る気配もなく困っています。仕事に関して本当に人が減り、今後どうなっていくのか、野田村漁協が無くなるのではないかという心配があります。私は漁業に入って27年になりますが、その頃からこの様な話があり、一切進んでいないなという印象です。農業と漁業では場所が違うというよりは、漁業の方がとっつきにくく船に関しても、海が職場と考えると入りづらいようです。何か皆さんのアイデアを聞き何か発見があれば、今後、漁業が発展していく話が出来ると思うので、よろしくをお願いします。

#### 【高橋局長】

海のそばで育った子ども達も、漁業体験というのは中々無いのかもしれませんが。今年度からですが、久慈東高校の授業で漁業の体験をし、親しむ事業も始めていますので、そういった事も含め色々考えていきたいと思っています。

#### 【寿松木 亨委員】

私は縫製工場をやっており、県北の縫製工場を支援して頂いてありがとうございます。あと数年もすると、県北地域の工場のブランド化も出来るのではないかと考えています。人口に関してですが、久慈市は数年前まで有効求人倍率が0.2とかその様な感じでしたが、今は私共も1年中求人を出していますが、全然来ない状況で新卒も来ません。私の個人的な意見ですが、全国的にも有効求人倍率が低い地域と交流をして、そちらの方から1年岩手県で働くのであれば、月々5万円戻すとか、新卒にも地元に残るために1年間働いている期間に関しては、月々3万円出しますというように、都会は行きたいけれど働きたくはない、ただここにも居たくないという人達が来るのではないかと感じたりします。私達も仕事があってもキャパ以上の仕事は受けられない、人がいないのであれば外国人を採用する。TPPで色々な所で関税が撤廃になってくると、それこそ人の自由化もして貰わなければ、縫製工場は競争相手がアジア各国なので、日本国内で人のやりくりが出来れば一番いいと思いますので、色々考えて頂ければと思います。

#### 【高橋局長】

市町村の中では、1ヶ月に3万円ではないですが、3年勤めると10万円くらいだったか企業を通じて新規学卒者に交付するといったようなものもあるかと思っていますので、お金のかかる話なので直ぐに「はい」とは言えませんが、色々検討したいと思っています。

#### 【大光テイ子委員】

県北広域振興局の施策を見ましたが、人口減少対策と産業振興というのはとても関係があるので、働く場の確保や産業振興の方を期待しながら見て来ました。先日新聞で振興局さんが一生懸命になり、高校生の漁業体験を行っていると出ていましたし、県外の子供達も修学旅行で南部もぐりを体験して頂くという事で、動き始めているのだと感じました。特に地元の食品を二戸地区は雑穀等をやっていましたが、テレビでこれが認知症に良いと出れば、すぐに売り切れになったり、いつまで続くのかは分かりませんが、

やはり健康に特化したような物を大学等で研究し開発出来れば、農家の方々も収入増になり非常に励みになるかと考えています。

あと、人口問題に関する報告ですが、こちらも多岐に渡り意識啓発から実際に体験学習をしたり、人口の自然減、社会減の部分まで書いていました。私も人の事は言えず 4 人子供がおりますが、3 人関東の方に行きました。何故かと言うと、学校がそちらだった為、学校の求職情報は関東が多いので結局はそのまま戻って来ないという事になってしまいました。国が動かなければ無理かと思いますが、大学のキャンパスをこちらにも設けてもらうとか、会社は厳しいかもしれませんが、支店か何かあれば関東に行かなくてもいいのにと考えていました。

それから出会いの場が少ないですし、実際相談支援所が欲しいと思ったら、早速市町村でもそのようなものを作り、動き始めてよかったですと感じました。私も子供が 4 人居て大変だと思いながら子育て出来たのはやはり、舅・姑と同居したからだと思います。子供を育てるのは肉体的にも大変ですし、精神的にも自分の時間が取れません。そして皆さんに、「子供を産まない理由は何ですか？」と聞きましたら、「1 人 1,000 万円掛かるんでしょ？」と言われました。やはり教育費を一番に考えるので、本当はもう 1 人欲しいがもういいと、自分の子供達も言っていました。そのような事を考えると、やはり地元で職場があればお年寄りに見て貰え、経済的な支援も孫には税制上も配慮してくれるというのがあるので、地域で働けるともっといいんだろうと考えていました。今、保育所や子育ての法的な事、それから会社等で女性が多い所では託児所のある職場や、子育て休暇が取りやすい職場等は表彰したりして、少しでも女性が長く働けるような支援があればいいと思っています。

#### 【高橋局長】

雑穀については最近、健康に良い成分を見つけたという話もありますので、そういうところも意識しながらやっていければと思います。あと、先程も説明がありましたが、東京 1 局集中を是正するといった話もありましたので色々やっていければと思っています。

#### 【貳又ゑな子委員】

私は食生活に関するボランティアをしていますが、やはり健康で長生きする為にも、食が大切だという思いが強くなりました。昨年の 1 月に S 1 グランプリというもので大阪に行き、夢のような話ですが、減塩活動を通じてのグランプリで 1 位に入賞することができました。保健所の皆さんには大変お世話になったこともあり、大変良い成績をとることが出来ました。その後の活動もまた栄養士さんの指導の下で、二戸、沿岸地域の大船渡・釜石・宮古の皆さんにも減塩の料理を作り食べて頂きました。岩手県は脳卒中が日本でワースト 1 ですので、減塩を通じ健康になって頂きたいなと思っています。今年は洋野町食生活改善推進委員がグランプリに参加し、「郷土の誉賞」という素晴らしい賞を頂くことが出来ました。食生活改善推進委員が皆さんに知って頂けたかなと嬉しく思っています。これも保健所の皆さんの協力でこの様に報告出来るのも皆さんの力だと思っています。これからも減塩活動に努め健康で長生き出来るように、皆さんと共に頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【高橋局長】

賞を取られるのも大変立派なことですが、その後、色々な地域での活動を活発にやられているという事で、ありがたいと思っています。先程、健康で長生きという話がありましたが、人口問題の部分を開いて一番下になりますが、子どもを産むとか子育てという事に注意がいきがちですが、「健康・長生きの支援」という項目もありますので、今後とも一緒にやらせて頂ければと思います。

【茂石純一委員】

観光関係ですが、私は普代村の宿泊施設のほうで仕事をしており、現在、復興業者さんが数多く宿泊されていますが、今年に入って徐々に減ってきています。原因の1つとしては、現場が南北に遠ざかっているという事です。今年から観光客の誘客強化をしていかなければならないと感じていて、その中で体験メニューや観光メニューを現在検討しているところです。先程も説明がありましたが、受け入れ態勢の強化を私達も日々感じていて、そちらの勉強会なりどんどん開催して頂ければ、非常にありがたいと思っています。

話は変わりますが、若者・女性活動支援に関して、そちらも是非強化して頂きたいです。サービス業は若者が入ってもすぐに辞めてしまい、その理由かどうかわからないですが、盆・正月に仕事をして朝から仕事ではなく、朝までが忙しくて夕方また忙しい、土日が忙しい。私達も努力不足かもしれませんが、どうやったら魅力があり、働き甲斐のある企業になるのか悩んでいます。

【高橋局長】

受け入れ態勢は大変重要だと思います。普代村さんの「みちのく潮風トレイル」のルートも、今後繋げていくという話もありますし、客室を改修されるというのは？そういった色々な魅力を考えていければというふうに思います。それから若者の職業感というのか、そういったものをもう少し育てていく事にも、力を入れて行きたいと思っています。

すみません、一通りお話を伺わせて頂きました。人口問題についてのお話の中にも、復興施策と共通するものがあるなと思います。あと何か、お話されることはありますでしょうか？

【安藤ノリ子委員】

私達は漁業1本なので。他の地域では分かりませんが、平均年齢65歳以上です。50代の人は何人も居ませんし、これから浜を継いで行く人がどうなるのか一番心配です。

【高橋局長】

漁業の方々、私達行政もどうやって後継者を育てていくのか大きな課題だと思っています。先程ありましたように、高校生に漁業体験をしてもらうとか、ある意味地道な努力を重ねながら後継者の育成に力を入れていければと思っています。よろしく願います。

それでは以上を持ちまして経営運営委員会議は終了させていただきます。